

ベルマーク新聞 6月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

カラーカプセル400個「努力の結晶」

相模原市立橋本小がお買いもの



⑤カプセルにオリジナルのバードコールを詰める作業も自分たちで ⑥⑦何色が出てくるかな? ⑧⑨販売場所にはカプセル回収箱も設置して準備万端

「老朽化で解体されたアスレチックを、もう一度建て直したい」

神奈川県相模原市立橋本小学校(佐藤美佳校長、児童857人)では昨年度、5年生が総合的な学習の時間に「50周年アスレチックプロジェクト」を進めてきました。同小のシンボルとして長く親しまれてきたアスレチックが老朽化のために取り壊されたのは昨年6月。新しいアスレチックを作りたいと子どもたちが立ち上がりました。そこで、資金集めに一役買ったのがベルマーク預金を使ったお買いもの。創立50周年を迎える2023年度の着工を目指し、プロジェクトが始まりました。

プロジェクトを進めるにあたっては、デザイン、資金、宣伝、ベルマークの4

つの部分に分かれて、役割を分担することにしました。そのベルマークチームの成果の一つが、「カラーカプセル」の購入。ミニチュアのおもちゃを入れるプラスチック製のカプセルです。

アスレチックの再建には資金が必要だと考えた子どもたちは、オリジナルグッズを作って300円で販売しようと思いつきました。販売方法をカプセルにすることで、店番がいなくても24時間いつでも買ってもらえて、より多くの収益が見込めると予想しました。

カラーカプセルの調達に役立ったのがベルマークです。みんなでベルマークを持ち寄って、仕分け・集計に取り組み、黄、青、緑、赤の4色のカラーカプセルを各100個ずつ、協力会社の内田洋

行から買いました。佐藤校長は「子どもたちが主体となって進めるプロジェクトのため、現金ではなく、身近にあるベルマークを活用できたことはありがたかった」と話してくれました。カラーカプセルの中には、取り壊したアスレチックの廃材から作ったバードコールを入れることになりました。

販売場所に決まったアリオ橋本店では1月18日、ベルマーク部の児童が集まって「ガチャ設置式」を実施。最初にマシンを回す人は、ジャンケンのトーナメントで決めました。最後まで残ったのは、就学前の小さな女の子。お母さんと一緒にハンドルを回すと、黄色のカプセルが出てきました。

「僕たちが全力を尽くして作ったもの

なので、ぜひ買ってください」という児童の終わりの言葉には、大きな拍手が送られました。

それから2ヵ月後。同校の体育館で3月23日に開かれたのは「感謝フェス」です。プロジェクトでお世話になった関係者を招いて感謝を伝える、5年生最後の総合的な学習の時間でした。ベルマーク部の中村祐稀さんは「マーク集めにはたくさんの人から協力を得ることができた。カラーカプセルの1個1個が、努力の結晶。鳥肌が立つくらい頑張った」と振り返りました。

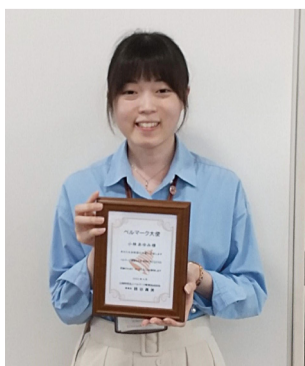
各方面からの寄付等にも支えられ、新しいアスレチックの建設が決まったことも発表されました。夏休み中に工事し、2学期には完成する予定です。

「たくさんの市民に運動を知ってもらいたい」

豊橋市のベルマーク大使、小林あゆみさんに交代

1000万点を集めようと、「ベルマーク日本一!プロジェクト」に取り組んでいる愛知県豊橋市。財団が「ベルマーク大使」の就任をお願いしている同市の教育委員会教育政策課のベルマーク担当が交代しました。前任の室井さとみさんからバトンを託されたのは、小林あゆみさんです。

小林さんは、生まれも育ちも豊橋市。市役所に就職した



2年前から、教育政策課に勤めています。今年4月の担当者交代で、市のベルマーク運動に携わることになりました。「これまでの大使の方々と比べると、経験はまだ多くありませんが、精一杯取り組みます」と話す小林さんですが、実は高校時代には自ら進んで「ベルマーク委員会」に所属。真夏の暑い教室で、ベルマーク仕分けに熱心に取り組んだことが印象に残っているそうです。集めたベルマークで、運動会のためにテントを買ったことも覚えていると話してくれました。

豊橋市がプロジェクトを進めるのに、大切な役割を担っているのが『豊橋まつり』でのベルマークブースで

す。コロナ禍で中止が続いていたお祭りですが、昨年10月、3年ぶりに開催。恒例のベルマークブースを設けることができました。市役所1階のブースで、ベルマークやインクカートリッジを回収しましたが、来場者からは「もっと早くベルマークのブース出展を知っていたら、持ってこれたのに」との声もあったそうです。「たくさんの市民にベルマーク運動を知ってもらうためにも、今年は広報誌やパンフレットでの事前PRを増やします」と小林さん。新大使の活躍で、ベルマークブースはますますにぎやかになりそうです。